



## 身代わり 焼け地蔵

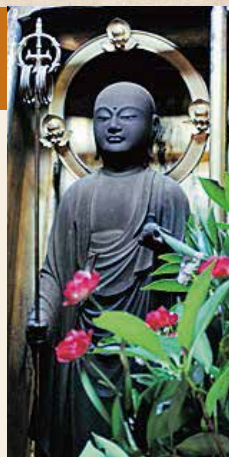
### 大野寺大磨崖仏(国史跡)と紅葉



清流の宇陀川を隔てた岸壁に線刻された弥勒仏。総高13.8メートル。興福寺の僧が造立を発願し、承元3年(1209年)、後鳥羽上皇が臨席して落慶法要が営まれた。紅葉が美しい。

華麗な枝垂桜で有名な大野寺。寺伝では、白鳳年間に役小角が開創し、のち、空海が一堂を建てたのに始まる。今の建物は明治以降の再建で、本堂に、背中が少し焼けた地蔵菩薩立像が安置されている。このお地蔵さんにまつわるお話し。

### 木造地蔵菩薩立像(国重文)



鎌倉時代作の美しい姿で、眼は玉眼、衣には截金文様が残る。像高約80センチ、背中に焼けたあとのあることから「身代わり焼け地蔵」と親しまれている。

を供えていた。

ある時、平左衛門の家が火事になり、運悪く全焼した。翌日、小浪が火をつけたと告げ口する者がいて、彼女は捕らえられた。

「大恩ある旦那様の家に、どうして私がそんな大それたことをしましたよか」と、小浪は涙を流し無実を訴えたが、聞き入れられず、火あぶりの刑に処せられることとなった。

そして、その日。刑場に集まった村人らは、「あの信心深い小浪さんが、火付けなんかするもんか」と口々に言い合った。

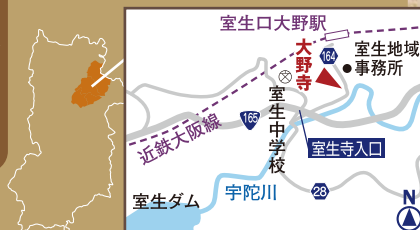
柱にくくりつけられた小浪は、目を閉じ、大野寺のお地蔵さんに一心にお経を唱えた。

やがて、火がつけられた。火はたちまち燃え上がって小浪を包んだ。

### 物語の場所を訪れよう

#### 「大野寺」へは…

近鉄大阪線室生口大野駅下車。南へ約500m。



大野寺 宇陀市室生区大野1680  
0745-92-2220

と、その時だった。燃え盛る炎の中、よく見ると、小浪の姿はお地蔵さんに代わっていた。役人らは驚き、水をかけ、やっと火を消した。お地蔵さんの背中は黒くこげていた。すると、その向こう、石に座って一心にお経を唱える無事な姿の小浪が現れた。村人らは手をたいて喜び合った。

小浪はやがて、出家して妙悦と名のり悦庵に住んだ。大野寺のお地蔵さんに感謝を捧げて一生を送ったという。

今、近鉄室生口大野駅の北西約五〇〇メートル、南面した山腹のやや広い平地に、悦庵跡と墓がある。花が供えられるなど、今も、小浪にゆかりのある地元の人によって手厚く守られている。